白銀南地区

まちほこ！ ②

広報はちのへのリニューアルにあわせて、「発信！地域自慢」から「まちほこ！」にリニューアル。
地域（まち）の皆さんが誇りに思うような、素敵な取り組みや文化などをご紹介します。

問市民連携推進課 TEL43-9182

この地に蛍を呼び戻せ ～地域一体となった環境づくり～

白銀南地区で取り組んでいる「ほたるの里づくり」について、
白銀南公民館協力会の大館恒夫（おおだてつねお）会長、白銀南公民館の小玉吉美（こだまよしみ）館長にお話を伺いました。

取り組みのきっかけ

大館会長　平成7年に白銀南公民館の開館事業として、公民館協力会を主体として「ほたるの里づくり」の取り組みを始めました。今から65年ほど前の昭和30年代は、ほたるの里周辺には田が広がり、そこに水を引くために作られた、勘助川（かんすけがわ）が注ぐため池がありました。当時はたくさんの蛍が飛んでいましたが、昭和50年頃には姿を見ることは無くなってしまったため、蛍を呼び戻して今の子どもたちにも見せたいと思ったことがきっかけです。

蛍が生息する環境を取り戻すまで

大館会長　蛍が飛ばなくなったのは、ため池がゴミだらけの湿地になってしまったことが原因です。蛍が生息するきれいな環境を取り戻すため、ごみ拾いなど清掃活動に取り組みました。また、勘助川から注ぐ水は蛍にとって冷たすぎるため、蛇行する水路を作り、日に当たる時間を長くすることで、水温を上げる工夫をしました。

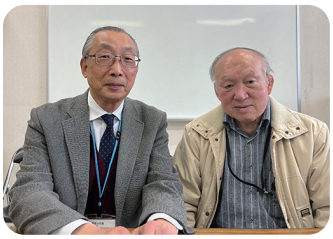
小玉館長　その結果、蛍が生息できる環境になったものの、なかなか蛍は生息しませんでした。そこで、採取した蛍が産んだ卵をふ化させ、幼虫とその餌となるカワニナを放流する取り組みを始めたところ、今では、多くの蛍が飛び交うようになりました。6月下旬頃には、ほたるの里まつりを開催しており、250～300人ほどが蛍の鑑賞に訪れます。また、ほたるの里の日々の観察は地域住民によるボランティアにも協力していただき、4月～10月は毎日、11月～3月は5日ごとに、水温の計測や、飛んでいる蛍の数を数えるなどの活動をしています。この取り組みは平成7年からずっと続いており、今の姿があるのは、地域一体となって活動に取り組んだおかげです。

大館会長　環境の大切さは子どもたちも学校で学んでいると思いますが、自分の目で見て触れることで、より大切に思ってくれていると感じています。

ほたるの里の整備風景

ほたるの里のこれから

小玉館長　ほたるの里周辺の環境が整ってきた結果、蛍が自然の中で繁殖し少しずつ生息するようになってきています。人が手を掛けなくても蛍が飛び交う環境にすることが理想です。



（左から）小玉館長、大館会長

広報 はちのへ 2024 6 No.1390

市ホームページ　X　Facebook　LINE　カタログポケット　マチイロ

広報はちのへデジタル版

全国の「広報」が閲覧できるアプリです。

2024年6月号
令和6年5月20日発行

［印刷部数］97,700部
［印刷経費］62.568円/部

［発行］八戸市
031-8686 青森県八戸市内丸一丁目1番1号
TEL:0178-43-2111　FAX:0178-45-2077
［編集］八戸市総合政策部広報統計課
TEL:0178-43-9317　FAX:0178-47-1485

UD FONT by MORISAWA